

C—84 短大家政科の被服構成及び実習に関する研究(第1報)

—短大家政科の実態調査—

名古屋女大家政 ○荻野千鶴子
古川智恵子
加藤 恵子
後藤 喜恵

1. 時代の変遷に伴い、衣生活の面においても既製服がはんらんし、また被服材料、デザイン、縫製技術などの進歩の著しい現在、本学短大家政科学生の実態を知り、また他の短大における被服構成及び実習の実態を調査して、適切な教材の設定を考えるとともに、その指導法研究の資料としたい。

2. ①各短大(家政科)に調査用紙を配布し、これを回収集計するとともに、訪問して聞きとり調査を行なった。

②本学家政科被服、食物、文化教養の3コース学生150名を対象に調査及び実力テストを実施。また中学、高校における家政科(被服関係)の履習単位及び教材を調査。

3. 他短大の実態調査では、本学の履習細目とほぼ同傾向を示すものが多くみられた。設備備品においては、非常にばらつきがみられた。又共通備品の数が少なかった。一室の実習学生数の最大平均は50名で、最小平均は30名であった。

高校普通課程及び家政課程における履習単位及び教材についてその大要がつかめた。

以上の結果、高校での被服に関する履習単位数による能力差を明確にしたい。